

平成25年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年11月13日

上場会社名 明治ホールディングス株式会社
 コード番号 2269 URL <http://www.meiji.com>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 浅野 茂太郎

問合せ先責任者 (役職名) IR広報部長 (氏名) 梅本 隆司

TEL 03-3273-3917

四半期報告書提出予定日 平成24年11月14日

配当支払開始予定日

平成24年12月6日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期第2四半期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第2四半期	561,249	2.4	10,049	35.5	11,795	36.1	5,265	123.2
24年3月期第2四半期	548,121	△2.1	7,413	△58.9	8,668	△54.8	2,359	△74.8

(注) 包括利益 25年3月期第2四半期 5,433百万円 (109.0%) 24年3月期第2四半期 2,599百万円 (△54.5%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第2四半期	71.48	—
24年3月期第2四半期	32.03	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年3月期第2四半期	765,515	301,089	38.4
24年3月期	749,985	298,491	38.9

(参考) 自己資本 25年3月期第2四半期 294,183百万円 24年3月期 291,589百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	40.00	—	40.00	80.00
25年3月期	—	40.00	—	—	—
25年3月期(予想)	—	—	—	40.00	80.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年3月期の連結業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,125,000	1.4	24,000	18.9	24,000	9.7	11,800	73.4	160.19

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

詳細は、[添付資料]5ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 (2)四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

25年3月期2Q	76,341,700 株	24年3月期	76,341,700 株
② 期末自己株式数	2,677,202 株	24年3月期	2,675,306 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	73,665,436 株	24年3月期2Q	73,669,071 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通しなどの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績などはさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提条件その他の関連する事項については、[添付資料]5ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料の入手方法について)

四半期決算補足説明資料は決算短信に添付しTDnetで開示しております。また、当社ホームページにも同日掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	5
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 継続企業の前提に関する注記	12
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	12
(6) セグメント情報等	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益 (円 銭)
当第2四半期 連結累計期間	561,249	10,049	11,795	5,265	71.48
前第2四半期 連結累計期間	548,121	7,413	8,668	2,359	32.03
対前年同期 増減率(%)	2.4	35.5	36.1	123.2	—

当第2四半期連結累計期間のわが国経済は、東日本大震災からの復興需要などが見られるものの、欧州債務危機や中国経済の成長率鈍化、長引く円高やデフレの影響などにより、依然として先行き不透明な状況で推移しました。

こうした環境下、当社グループは2012 - 2014グループ中期経営計画「TAKE OFF 14」に基づき、各事業とも積極的に取り組みを進めています。食品セグメントにおいては好調な乳製品事業が全体を牽引、また医薬品セグメントでは薬価改定の影響を補うべく、主に国内の医療用医薬品の学術普及活動強化に努めております。

この結果、売上高は5,612億49百万円（前年同期比2.4%増）、営業利益は100億49百万円（同35.5%増）、経常利益は117億95百万円（同36.1%増）、四半期純利益は特別利益の増加などにより52億65百万円（同123.2%増）となりました。

セグメント別の概況は次のとおりです。

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額	連結 損益計算書 計上額
	食品	医薬品	計		
売上高	503,916	58,447	562,363	△1,114	561,249
営業利益	6,578	3,308	9,887	161	10,049

① 食品セグメント（株式会社 明治の事業に相当）

	前連結会計年度 (百万円)	当連結会計年度 (百万円)	対前期 増減率(%)
売上高	490,589	503,916	2.7
営業利益	2,663	6,578	147.0

売上高は、乳製品事業が市乳を中心に引き続き好調に推移したことにより、健康栄養事業などの売上減を補い、前年同期を上回りました。

営業利益は、主に乳製品事業の増収およびプロダクトミックスの改善により、前年同期を大幅に上回りました。

事業別の売上概況は次のとおりです。

■ 乳製品事業（【市乳】牛乳類、ヨーグルト、飲料等 【乳食品】チーズ、バター、業務用乳製品等）

市乳は、昨年度下期以降のシェア回復に加えヨーグルトの売上増により、また乳食品は、主力商品群の順調な売上伸長などにより、全体では前年同期を上回りました。

【市乳】

- ・健康志向の高まりの中、積極的な販促活動によって「明治ヨーグルト R-1」「明治プロビオヨーグルト LG21」や「明治ブルガリアヨーグルト」など、ヨーグルトの売上が拡大を続け、前年同期を大幅に上回りました。
- ・牛乳類は、「明治おいしい牛乳」の店頭マーケティングやブランド10周年消費者キャンペーンなどの施策が奏功し、前年同期を上回りました。

【乳食品】

- ・市販用ナチュラルチーズは、主力の「明治北海道十勝カマンベールチーズ」や「明治ポーノチーズ」が順調に売上を伸ばし、前年同期を上回りました。
- ・市販用マーガリン類は、「明治ヘルシーソフト オフスタイル」シリーズが引き続き好調に推移し、また、本年3月発売の「明治ふんわりムースソフト クリーミースムース」なども貢献し、前年同期を上回りました。
- ・業務用生クリームは、顧客の新規開拓や高品質化による売上増などにより、前年同期を上回りました。

■ 菓子事業（【菓子】チョコレート、ガム、キャンデー、輸入菓子等 【デザート】アイスクリーム、スイーツ等 【フードクリエイティブ】業務用（製菓・食材）等）

菓子事業は、菓子は前年同期に届かなかったものの、デザート、フードクリエイティブが順調に売上を伸ばし、全体では前年同期を上回りました。

【菓子】

- ・チョコレートは、発売50周年を迎えた「アーモンドチョコ」などのナッツチョコレート群は順調に推移しましたが、長引く残暑の影響により全体として前年同期を下回りました。
- ・ガムは市場も低迷する中、前年同期を下回りましたが、グミは好調に推移しました。

【デザート】

- ・アイスクリームは、主力の「明治エッセルスーパーカップ」が前年同期を大幅に上回りました。加えて、本年3月発売の「明治クリスピーズ チョコ&バニラ」も順調に推移しました。

【フードクリエイティブ】

- ・フードクリエイティブは、顧客ニーズにきめ細かく応える商材提供を強化し主力商品群が伸長、製菓・食材とも前年同期を上回りました。

■ 健康栄養事業（【健康】スポーツ栄養、健康機能、食品、OTC等 【栄養】粉ミルク、流動食、病態食等）

健康は市場の低迷や競争激化を受け前年同期を下回り、栄養は前年同期並みの水準となった結果、全体では前年同期を下回りました。

【健康】

- ・スポーツプロテイン「ザバス」は、ランナー、ジュニアへの普及、販促によるユーザーの増加などにより順調に拡大し前年同期を上回りましたが、基礎美容食品の「アミノコラーゲン」は前年同期を下回り、健康全体で前年同期を下回りました。

【栄養】

- ・流動食は、新規採用先の増加や新商品の寄与により、前年同期を上回りました。
- ・粉ミルクは前年同期を下回りました。本年9月に「明治ほほえみ」「明治ステップ」をより母乳に近い栄養成分へとリニューアルし、積極的な普及活動を行なっております。

② 医薬品セグメント(Meiji Seika ファルマ株式会社の事業に相当)

	前連結会計年度 (百万円)	当連結会計年度 (百万円)	対前期 増減率(%)
売上高	58,568	58,447	△0.2
営業利益	4,320	3,308	△23.4

売上高は、国内の医療用医薬品については、本年4月の薬価改定の厳しい影響がある中、抗うつ薬、ジェネリック医薬品の伸長などにより、前年同期を上回りました。一方、海外の医療用医薬品、生物産業事業（農薬・動物薬）は苦戦となり、セグメント全体では前年同期をわずかに下回りました。

営業利益は、上期計画は上回りましたが、主に薬価改定の影響により前年同期を下回る結果となりました。

事業別の売上概況は次のとおりです。

■ 医療用医薬品事業

- ・ 抗菌薬では、「メイアクト」は薬価改定の影響などにより前年同期を下回りましたが、「オラペネム」は前年同期を上回りました。
- ・ 抗うつ薬では、「デプロメール」は前年同期を下回りましたが、「リフレックス」は積極的な学術普及活動などにより前年同期を上回りました。
- ・ ジェネリック医薬品では、カルシウム拮抗薬「アムロジピン錠 明治」は前年同期を上回りました。加えて、昨年11月に発売したアルツハイマー型認知症治療剤「ドネペジル 明治」や、本年6月に発売した抗うつ薬「パロキセチン 明治」も売上に寄与しました。

■ 生物産業事業（農薬・動物薬）

- ・ 農薬は、いもち病防除剤「オリゼメート」および昨年4月発売の茎葉処理除草剤「ザクサ液剤」の売上減が響き、前年同期を下回りました。
- ・ 動物薬は、コンパニオンアニマル用薬、水産用薬は前年同期を上回りましたが、家畜用薬が前年同期を下回り、全体として前年同期を下回りました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

① 当期末の資産、負債、純資産の状況

〔資産〕

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は7,655億15百万円と前連結会計年度末に比べて155億29百万円増加しました。これは受取手形及び売掛金が63億25百万円、商品及び製品が50億86百万円増加したことなどによるものです。

〔負債〕

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は4,644億26百万円と前連結会計年度末に比べて129億31百万円増加しました。これは1年内償還予定の社債を200億円償還したこと、コマーシャル・ペーパーが110億円、短期借入金で85億1百万円減少した一方、社債を300億円発行したこと、長期借入金で83億28百万円、支払手形及び買掛金が81億75百万円増加したことなどによるものです。

〔純資産〕

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は3,010億89百万円と前連結会計年度末に比べて25億98百万円増加しました。これは、利益剰余金が25億8百万円増加したことなどによるものです。

なお、自己資本比率は38.4%（前連結会計年度末は38.9%）となりました。

②キャッシュ・フローの状況

(単位：百万円)

区 分	前第 2 四半期 連結累計期間	当第 2 四半期 連結累計期間	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,269	19,889	13,620
投資活動によるキャッシュ・フロー	△22,754	△14,643	8,110
財務活動によるキャッシュ・フロー	4,590	△5,938	△10,529
現金及び現金同等物に係る換算差額	70	15	△55
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△11,823	△676	11,146
現金及び現金同等物の期首残高	21,741	14,363	△7,377
新規連結による現金及び現金同等物増加額	1,281	—	△1,281
非連結子会社との合併に伴う現金及び現金 同等物増加額	—	158	158
現金及び現金同等物の期末残高	11,200	13,846	2,645

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益の増加、退職給付引当金の増加などにより、前年同四半期より136億20百万円収入増の198億89百万円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出が減少したことなどにより、前年同四半期より81億10百万円支出減の146億43百万円の支出となりました。

これにより、フリー・キャッシュ・フロー（営業活動によるキャッシュ・フローと投資活動によるキャッシュ・フローの合計額）は前年同四半期より217億31百万円収入増の52億46百万円の収入となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、金融債務が減少したことなどにより、前年同四半期より105億29百万円支出増の59億38百万円の支出となりました。

これらの結果、当第2四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物は138億46百万円となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成24年5月14日の「平成24年3月期決算短信」で公表いたしました連結業績予想数値に変更はありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	14,662	14,209
受取手形及び売掛金	168,699	175,025
商品及び製品	77,292	82,379
仕掛品	2,240	2,797
原材料及び貯蔵品	32,480	35,323
その他	27,438	30,411
貸倒引当金	△282	△262
流動資産合計	322,531	339,884
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	270,604	274,629
減価償却累計額	△149,088	△151,451
建物及び構築物（純額）	121,515	123,177
機械装置及び運搬具	423,885	426,999
減価償却累計額	△322,356	△327,702
機械装置及び運搬具（純額）	101,528	99,296
工具、器具及び備品	56,671	56,489
減価償却累計額	△47,235	△46,925
工具、器具及び備品（純額）	9,435	9,563
土地	65,255	65,180
リース資産	7,041	7,494
減価償却累計額	△2,559	△3,139
リース資産（純額）	4,482	4,355
建設仮勘定	8,966	8,093
有形固定資産合計	311,184	309,667
無形固定資産		
のれん	270	212
その他	7,770	7,434
無形固定資産合計	8,040	7,646
投資その他の資産		
投資有価証券	42,212	41,350
その他	66,484	67,426
貸倒引当金	△469	△460
投資その他の資産合計	108,228	108,316
固定資産合計	427,453	425,630
資産合計	749,985	765,515

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	109,136	117,311
短期借入金	61,860	53,358
1年内償還予定の社債	40,000	20,000
コマーシャル・ペーパー	47,000	36,000
未払法人税等	2,888	5,384
賞与引当金	9,286	9,324
返品調整引当金	212	201
売上割戻引当金	5,772	4,409
その他	76,342	79,632
流動負債合計	352,500	325,621
固定負債		
社債	50,000	80,000
長期借入金	6,401	14,729
退職給付引当金	18,590	20,186
役員退職慰労引当金	417	289
その他	23,584	23,598
固定負債合計	98,994	138,804
負債合計	451,494	464,426
純資産の部		
株主資本		
資本金	30,000	30,000
資本剰余金	98,852	98,851
利益剰余金	174,494	177,002
自己株式	△9,268	△9,274
株主資本合計	294,078	296,579
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,127	5,317
繰延ヘッジ損益	△2,303	△2,395
為替換算調整勘定	△5,313	△5,316
その他の包括利益累計額合計	△2,488	△2,395
少数株主持分	6,901	6,905
純資産合計	298,491	301,089
負債純資産合計	749,985	765,515

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
売上高	548,121	561,249
売上原価	369,120	373,744
売上総利益	179,000	187,504
販売費及び一般管理費	171,586	177,455
営業利益	7,413	10,049
営業外収益		
受取利息	28	29
受取配当金	563	556
不動産賃貸料	1,346	1,200
受取補償金	1,500	1,500
持分法による投資利益	128	210
その他	596	919
営業外収益合計	4,163	4,416
営業外費用		
支払利息	1,001	868
為替差損	477	220
不動産賃貸原価	959	948
その他	470	632
営業外費用合計	2,909	2,669
経常利益	8,668	11,795
特別利益		
固定資産売却益	272	1,457
その他	34	164
特別利益合計	306	1,622
特別損失		
固定資産廃棄損	599	1,084
災害による損失	789	—
投資有価証券評価損	417	1,372
事業再編費用	715	—
その他	233	150
特別損失合計	2,754	2,608
税金等調整前四半期純利益	6,220	10,809
法人税等	3,724	5,471
少数株主損益調整前四半期純利益	2,496	5,337
少数株主利益	136	72
四半期純利益	2,359	5,265

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	2,496	5,337
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	271	204
繰延ヘッジ損益	△578	△92
為替換算調整勘定	409	△16
持分法適用会社に対する持分相当額	1	△0
その他の包括利益合計	103	95
四半期包括利益	2,599	5,433
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,398	5,359
少数株主に係る四半期包括利益	200	73

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	6,220	10,809
減価償却費	19,798	19,376
のれん償却額	127	63
有形固定資産除却損	599	1,086
投資有価証券評価損益 (△は益)	417	1,372
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△395	△32
賞与引当金の増減額 (△は減少)	501	37
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	△2,024	172
受取利息及び受取配当金	△591	△586
支払利息	1,001	868
持分法による投資損益 (△は益)	△128	△210
有形固定資産売却損益 (△は益)	△251	△1,405
売上債権の増減額 (△は増加)	△2,432	△5,351
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△9,682	△8,514
仕入債務の増減額 (△は減少)	8,503	6,248
その他	△11,354	△1,331
小計	10,308	22,602
利息及び配当金の受取額	599	676
利息の支払額	△1,043	△944
法人税等の支払額	△3,594	△2,444
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,269	19,889
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△19,889	△14,570
無形固定資産の取得による支出	△1,138	△990
有形及び無形固定資産の売却による収入	268	1,711
投資不動産の取得による支出	△5	△19
投資不動産の売却による収入	520	—
投資有価証券の取得による支出	△117	△627
投資有価証券の売却による収入	14	158
その他	△2,405	△305
投資活動によるキャッシュ・フロー	△22,754	△14,643
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△44,247	△616
コマーシャル・ペーパーの増減額 (△は減少)	20,000	△11,000
長期借入れによる収入	—	10,000
長期借入金の返済による支出	△2,249	△9,985
社債の発行による収入	34,838	29,867
社債の償還による支出	—	△20,000
自己株式の増減額 (△は増加)	△6	△6
配当金の支払額	△2,928	△2,926
少数株主への配当金の支払額	△119	△89
その他	△695	△1,180
財務活動によるキャッシュ・フロー	4,590	△5,938

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
現金及び現金同等物に係る換算差額	70	15
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△11,823	△676
現金及び現金同等物の期首残高	21,741	14,363
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	1,281	—
非連結子会社との合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	158
現金及び現金同等物の四半期末残高	11,200	13,846

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(6) セグメント情報等

(セグメント情報)

I 前第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	食品	医薬品			
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	490,038	58,083	548,121	—	548,121
(2) セグメント間の 内部売上高又は振替高	551	485	1,037	△1,037	—
計	490,589	58,568	549,158	△1,037	548,121
セグメント利益	2,663	4,320	6,984	429	7,413

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益の調整額429百万円には、セグメント間取引消去34百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用395百万円が含まれております。全社費用は当社(持株会社)運営に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

固定資産に係る重要な減損損失はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

のれんの金額の重要な変動はありません。

(重要な負ののれん発生益)

重要な負ののれんの発生はありません。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間（自平成24年4月1日 至平成24年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント		合計	調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	食品	医薬品			
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	503,354	57,894	561,249	—	561,249
(2) セグメント間の 内部売上高又は振替高	561	552	1,114	△1,114	—
計	503,916	58,447	562,363	△1,114	561,249
セグメント利益	6,578	3,308	9,887	161	10,049

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益の調整額161百万円には、セグメント間取引消去72百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用88百万円が含まれております。全社費用は当社（持株会社）運営に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

固定資産に係る重要な減損損失はありません。

（のれんの金額の重要な変動）

のれんの金額の重要な変動はありません。

（重要な負ののれん発生益）

重要な負ののれんの発生はありません。